

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 6年 2月 5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100287		
法人名	社会福祉法人 清和福社会		
事業所名	グループホーム美里園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県海草郡紀美野町安井6-1		
自己評価作成日	令和6年2月5日	評価結果市町村受理日	令和6年4月17日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和6年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>建物の食堂は、大きな解放感のあるガラスを取り入れられ、春には桜の花、秋には山々の紅葉や冬には雪景色などのより季節を肌で感じることができ、ご利用者様にゆったりとした空間が演出されています。</p> <p>お正月やお花見など四季折々な掲示物で季節を感じて頂こうと、ご利用者様が主になって掲示物を作成や夏には、「きゅうり」や「なすび」などの夏野菜の栽培し調理をしたり、冬には鍋料理をみんなで作るなど季節を感じながら食べられています。また、季節の応じた掲示物を合同制作するなど、利用者の方々かにぎやかに交流を深められるよう取り組んでいます。</p> <p>この他、コロナウイルス感染症などの感染症を予防しながら、家族様や知人など、陰圧室を利用しての対面面会や玄関ガラス越しでの面会、オンラインにより面会など、今までのつながりを途切れないように心がけています。</p> <p>今後も、「地域に密着するグループホーム」として安心して楽しく暮らせるよう取り組みを考えていきたいと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>紀美野の豊かな自然の中にあるグループホームは、玄関やリビングを含めユニット全体が広々と開放感があります。また食堂の大きな窓は見晴らしもよく、桜の花や紅葉といった四季折々の大自然の景色が楽しめる、季節を間近で感じることができます。また、ユニットにはたくさんの陽の光が差し込み明るく、気持ちも明るくなってきます。コロナウイルス感染症の影響で様々な制限がありますが、そのような中でも陰圧室を設置し対面で面会を出来るようにするなどいろいろと工夫され対応されています。日頃のケアでは週に1回温かい鍋を召し上がっていただき、入居者様に喜んでいただける企画・実施するなどの対応がされています。緊急時にも提携病院の医師とも24時間の連絡体制ができています。また入居者様が重度化した場合も同法人の特養と連携し受け入れを行ったり、ご家族の意向を確認しグループホームで看取りを希望されればホームで看取り対応がされています。横になったまま入浴できる浴槽があるなど設備の面でも重度化や看取りに対応可能です。また見守り型の介護ロボット導入し入居者様の転倒をできる限り防げるように対応するなど入居者様が安心して生活していただけるよう取り組まれています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針と理念を基にその都度話し合い、職員間で共有を図っています。職員室内に理念を掲示し、常に実現に向けて取り組んでいます。	職員室やホールに法人理念とホームの理念を掲示し、月1回の会議や研修などを通じて職員間で共有を図り、理念を意識した実践に取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防の観点より、ボランティアの受け入れが出来ず、地域の方とのつながりは、利用者の方と知人の方が、玄関のガラス越しで面会になってしまっています。	利用者の近隣の方が差し入れに訪れたり、地域の方が収穫された農作物を届けてくれたり、自治会にも入会されたりと事業所と地域とが日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して自治会との交流を図っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の意見を取り入れ職員の気づかない部分の意見を尊重し、多方面の意見要望を取り入れサービスの向上に努めています。	書面で年1回の開催となっています。利用者様のご家族様、区長、民生委員、地域包括支援センターの方々から寄せられた意見や要望を取り入れ向上に努められています。	運営推進会議での意見や要望を取り入れサービス向上に取り組まれています。現在は、年1回の開催となっています。通常の運営推進会議の開催に向けWITHコロナの対応を加速させてみてはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種研修の案内を頂いたり、運営状況の報告や運営推進会議を通して要望を頂くなど、連携をとっています。	コロナ感染症流行以降、地域支援事業などには参加できていませんが、以前は積極的に参加されており、県や町開催の認知症支援研修や高齢者虐待防止について等の研修を受講するなど町との連携が取られています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	人権擁護推進員の活動や身体拘束廃止委員会の活動により職員一丸となって身体拘束のないケアに取り組んでいます。ただ、玄関については、地元区長より「本人の安全の為、施錠して欲しい」要望があり施錠しています。職員は閉塞感がでないよう努めています。	各委員会メンバーが受講した研修内容をホーム内でフィードバック研修したり、介護ロボットを各居室に設置し早めに利用者に対応するなど身体拘束をしないケアに取り組まれています。	

7	<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>人権擁護推進員を中心に内外部の研修や職員の話し合いにより意識の向上に努めています。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度や権利擁護について学び、個々の必要性に応じ制度を活用できる体制をとっています。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書により利用者様に十分な説明を行いご理解、納得のもと契約を頂いています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議を通しての意見の反映や「苦情相談窓口」や「ご意見箱」を設置し、速やかに対応できるようにしています。外部者では「第三者委員会」を設置しています。</p>	<p>運営推進会議の開催を通し意見記入用紙を送付し、ご意見を頂いたり、また面会時や日頃の家族様への電話連絡時などを利用してご要望をお聞きし、それらを参考に運営に反映されています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月一回の会議を設けると共にミニカンファレンスの必要な時は随時、実施し意見を反映させています。</p>	<p>月1回の職員会議はもちろんのこと、普段の職員間のコミュニケーションでも利用者様のケアや業務の見直し、季節行事についても意見交換が行われています。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度などを利用し、職員の個性を引き出し得意分野に生かせるようにしています。内部研修を通じて各職員がやりがいをもって生き生き仕事出来るようにしています。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修については、マニュアルをもとに先輩職員によるOJT教育を受けています。また、新人既存問わず内・外部研修についても積極的に参加できる機会を確保しています。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域密着型地域ケア会議（介護を考える会）に参加することにより、他事業所とのネットワークを通じてサービスの質の向上に努めています。</p>	

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される事への不安、希望、要望をじっくり話し合いホーム内を見学して頂きながら説明しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の不安、希望、要望及び本人様の生活状況をお聞きし進路を密にとり相談しあっています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでのサービス内容を利用できる資源の情報の提供をしています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年間行事の慣わしなどを教えて頂いたり、一緒に生活しているという関係を築いています。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時、本人の意思などを代弁し、家族様と共に支えていく雰囲気を作っています。		
20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん親類や友人の方に陰圧室での対面面会や玄関ガラス越しでの面会にオンライン面会により交流が途切れないようにしています。	ガラス越しやオンライン面会だけでなく、陰圧室を設置し、対面で面会をして頂けます。また、利用者の知人などが差し入れを持ってきてくれたり、利用者から知人等にお返しをするなど馴染みの関係が途切れないように努めています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を理解し、趣味等を活かして関わり合えるように利用者同士のムードを感じとり声かけなど行っています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に入所された方へは、本人・家族との交流を続け、相談相手になるなどの支援を続けていきます。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人の希望を取り入れています。困難な場合は本人本位で検討し、家族様とともに、その人らしく暮らし続けるよう支援に取り組んでいます。</p>	<p>入居時や日頃の会話や関わりからご本人やご家族の思いや意向の把握に努められています。また利用者本人から要望や意見を伝えてくれるなど話しやすい環境やその人らしく暮らし続けられるよう取り組まれています。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人、家族様よりこれまでの生活歴、環境、暮らしぶり等をお聞きし、把握している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日の介護日誌の記録、職員間の連絡ノートにより把握している。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月一回のケース会議や毎日のミニカンファレンス及び随時、家族様からの意見を反映させた介護計画を作成しています。</p>	<p>3ヶ月に一度のモニタリングと計画書の見直し、作成をされています。運営推進会議やご家族への連絡時、面会時にお聞きしたご意見や主治医などからの意見を反映をされています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>心身の状況を個人別に整理し連絡ノートに記入し情報を共有するとともに、介護計画書見直しにいかしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>毎日のミニカンファレンスの中で状態変化に応じた見直しを行い職員間で共有し支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地元保育所や読み聞かせなどのボランティアの来園があり、地域との接触を継続しひろげています。</p>		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院から週一回、必要時には二回の往診。また、リハビリも週一回の往診があります。医師との連携を密にして緊急時にも対応可能にしています。	入居時に施設の主治医に変更されるケースが多いが、希望があれば元の主治医を選択することも可能。施設の主治医は週一回の往診と24時間の電話対応も可。リハビリ専門職の往診もあり、安心して生活できる環境となっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設施設の看護師と連携をはかり、バイタルサインの急変時などの相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携を密にとり、家族様を支えて早期退院を支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化すると、主治医や家族と話し合い、医療的ケアが必要な場合は、併設特養を利用できるよう連携を図ったり、ターミナルケアについても同意書を作成するなど、本人、家族の意向に応じた支援を行っています。	入所時に、重度化した場合やターミナルケアについて説明し、希望があれば施設での対応も可能となっています。併設の特養への入所にも希望に応じ柔軟に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には実施していないが、併設特養看護師より、急変時や事故発生時の応急手当などの初期対応の指導などを受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設マニュアルに基づいて防災体制をつくり年二回の消防や防災訓練を利用者様、職員とも受けています。	年2回、土砂災害、水害、火災を想定した避難訓練を実施しています。BCPを策定し、定期的に会議で内容の見直しを検討しています。最近では備蓄量の見直しを行いました。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>その人に合った言葉使いや対応を心掛け尊厳と権利を損なわないよう努め本人様誇りを維持し、プライバシーの確保が出来るように努めています。</p>	<p>職員会議等で不適切な対応がないか確認し、必要があれば都度注意するようにしています。特に排泄介助時のプライバシー保護には気を付けて対応しています。居室入り口にはドアの内側にレースカーテンがあり、開けっ放しでも中が見えにくいよう工夫されています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>プライバシーに心掛け自己決定しやすい雰囲気作りを行っています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人様の意思優先で支援し、個々の希望が取り入れられるよう支援しています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>好みの服装を選んで頂いている。理容は外部から偶数月に来て頂き本人様の希望を伝えている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎月一回のお誕生日会メニューを提供しています。また、利用者の方とともにおやつ作りを行ったり、夏季には利用者の方とともに夏野菜の栽培し、調理行い、冬には鍋料理の提供も行っています。</p>	<p>基本的には併設する特養と同じメニューを提供しているが、冬場は週1回鍋料理を提供する等、定期的に独自のメニューで入居者に食事を楽しんでもらえるよう工夫されています。可能な方には食器の片付けや準備を手伝ってもらっています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食の食事摂取量及び一日の水分摂取量をチェックすると共に、栄養士が栄養バランスを考え献立をたてています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアが自分でできる方への声かけ、また、出来ない方へは介助を行っています。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人一人の排泄チェック表からパターンを把握し、事前にトイレ誘導するなど気持ちよく排泄できるように支援しています。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握することで、なるべくオムツに頼らない排泄ケアを心がけています。夜間は眠りスキャンを活用し、覚醒のタイミングでトイレ介助する等、安眠を妨げることなく失禁を防ぐ工夫をされています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便チェック表で管理するとともに、便秘の原因の一つとなる水分摂取量の確認や摂取の促しを行っています。また、フロアでの歩行訓練や腹部マッサージなども行っています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本の入浴日に利用者様の気分が乗らない時は無理強いをせず、時間を置いたり、後日入浴して頂いています。</p>	<p>基本的に週2回の入浴となっているが、希望があれば柔軟に対応できます。浴槽にはリフトが設置されており、重度化しても入浴することができます。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>午睡時間の調整や日中の活動・気分転換等で休息、安眠を促しています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬管理表があり、内容把握が出来ており、服薬支援と症状変化に注意しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>共有場所にて各人出せる部分の担当で作品作りや洗濯物たたみ等、一人一人の能力に応じた役割、楽しみができる支援を行っています。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体力的に困難な方がおられますが、季節行事としてお花見会での外出を行ったり、天候の良い日には散歩など屋外に出る機会をもうけています。	コロナ禍以降外出の機会は減りましたが、施設の周りを散歩したり、ベランダで野菜の栽培をしたりと、外に出て季節を感じる機会を確保しています。家族による外出や外泊も可能となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方は、ショッピング等で自分で支払われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様や知人の方の面会が頻繁にあり、宿泊もできます。希望があれば電話をしたり、手紙の表書きの代筆等の支援も行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな人形や五月人形、クリスマスツリー等を玄関に飾り季節感を感じるようにしています。	共有スペースには入居者がつくった季節の飾りが掲示されており、温かみのある空間となっています。空気清浄機も複数台設置されており、不快な臭いもありません。食堂は窓が大きく眺めも良い為、気持ちよく食事ができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファ、テレビを置きテーブルで新聞を読んだり、トランプや折り紙、塗り絵等を行い共有できる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれており、プライバシーの保護が出来る居室の配慮に心掛けています。	居室は広さも十分で、入居者それぞれ使い慣れた家具や写真を持ち込まれ、心地よく過ごせる環境です。ドアの内側にはレースカーテンがあるため、換気等でドアを開けている際も、中が見えにくいようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を上げ分かり難い方には大きな字で書いた名前を貼り、大きな手作りの日めくりを食堂に掛け、日時の認識をしあっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	②	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	②	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	④	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	③	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	③	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	①	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない